

2021年

夏

ついに、

世界自然遺産登録の

可否が決定!!

されます!

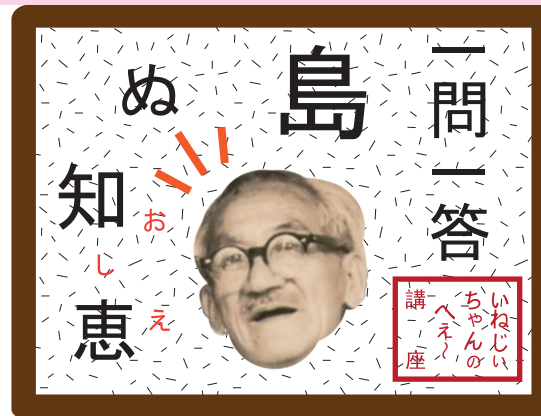


世界遺産になったら、...

観光客が増えて自然が壊れる?

規制が強化される?

奄美大島は徳之島、沖縄島北部、西表島と一緒に世界自然遺産の登録を目指しています。新型コロナウイルス感染症の流行により、世界遺産の登録を決めるユネスコ（国際連合教育科学文化機関）の第44回世界遺産委員会の開催が延期されましたが、2021年夏に委員会の開催が決まり、登録の可否が審議される予定です。



2

マスクをしまい。

まさかこんな世の中になるち

思わなかったよねえ

マスク騒動おぼえとる?

まさかマスクが売り切れるち

思わなかったよねえ?

今は普通に売ってるから
またなくなるち

あんまり思わんよねえ?

だんば、お金は違つがね。

お金をつかえば

なくなるち

みんな知つとるし、

みんな思ってる。

本当はねえ...

マスクもお金も自然も

みんなおんなじよ。

作らなければ

マスクは

またなくなる。

お金も使つて

ばっかりいたら

減るだけだよ。



飛び入り出演
りっちゃん

はげー
りっちゃん
感心!!

3

自然も一緒よ。

つかえば減るのよ。

守つて増やせば

銀行と一緒に

元金増えて利息が

もらえる。



利息は
美味しい空気に水、
たべもの、着るもの、
いろいろいっぱい!

自然を
守る! 残す
増やすと...

さいわい島には

国立公園ができて、

開発されん土地ができて

やっと元金の保証ができた

当たり前に手に入ってる

水も空気も生き物も

自然があればこそよ。

ちゃんと残さんは

なくなることもある。

当たり前じゃない

ちゆうことよねえ。



早く遊ぼう!

本当の銀行は、あんまり
利息ないけどや!

コラム

奄美野生生物保護センター HP 更新中!

奄美野生生物保護センターでは ふれあいイベントのお知らせや自然保護に関する日々の取り組みなどについてHPを更新しています! 国立公園や奄美群島の生きものを紹介したパンフレットなどもたくさん掲載していますので、ぜひ覗いてみてください。新しい情報を日々発信できるよう更新がんばります!



マンガース目撃情報を求めています!

奄美大島では、生態系に大きな悪影響を与えていた外来種マンガースの防除が進み、根絶間近となっています。根絶に向けて、島民のみなさんの目撃情報が貴重な情報源となっています。「もしかして、マンガース?」と思ったら奄美野生生物保護センターまでご連絡ください。



編 集 後 記

「外来種駆除」最近よく新聞で見かけますね。何度か参加しましたが、正直効果がいまいち分かりませんでした。ところが、この前外来種を抜いた場所を1ヶ月ぶりに訪れると、在来種で希少なオオシマノジグクが「やっと場所が空いた!」とばかりに一面に広がっているではありませんか! 駆除される外来種には申し訳ないけれど、駆除の効果と必要性を改めて感じた黒豚でした。(黒豚編集長)

連絡先: 環境省奄美群島国立公園管理事務所
電話: 0997-55-8620 編集: 奄美自然学校



■国立公園 × 地域住民

【国立公園管理運営計画】

奄美群島国立公園は、2017年3月に指定され、日本で1番新しい国立公園です。国立公園では、地域の実情に合わせて管理運営するため、地域関係者でビジョンや方針を共有しながら取組を進めることを目指し、「国立公園管理運営計画」を作成します。奄美群島では、2020年3月に奄美大島、徳之島地域の管理運営計画を策定しました。今年度は、喜界島、沖永良部島、与論島の3島で計画を策定するために地域みなさんと目指したい国立公園像や課題に感じていることなどについて意見交換を行いました。



■野生動物 × 観光

【三太郎線周辺におけるナイトツアー実証実験】

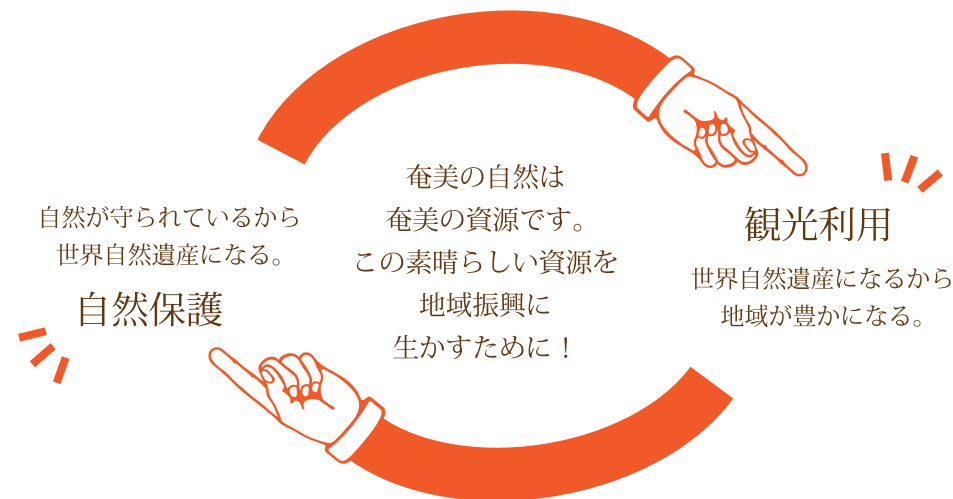
観光客の増加に伴い人気が出ている野生動物のナイトツアーですが、利用者が増えることで野生動物の交通事故や利用者同士のトラブルなど様々な問題が見られるようになりました。そこで、貴重な野生動物を守りながら、奄美大島の魅力を楽しめるよう、持続可能なルールを検討するための実証実験を行いました。実証実験では通行台数の制限や観察ルールの設定などを行い、利用者の満足度や生き物の出現頻度などを検証しました。利用者が増えたとしても貴重な自然が壊れることなく、安心して利用できるよう奄美市三太郎線周辺道路では、2021年夏のルール運用開始を目指して、住民やガイドのみなさんと検討を進めています。



■世界自然遺産とは？

世界遺産とは、194か国（2021年2月現在）が締結する世界遺産条約に基づき、人類共通のかけがえのない財産、将来の世代に引き継いでいくべき宝物として登録されるものです。奄美大島、徳之島は、世界的にみてもこれらの島々にしかない希少な動植物が多く生息・生育する場所です。その「生物多様性」が世界的にも高く評価され、奄美大島の貴重な自然を世界の宝物として未来永劫に守っていくため、現在、世界自然遺産への登録を目指しています。

自然保護 × 地域づくり



世界自然遺産になる

ということは

将来にわたって

奄美の自然を守ると

世界と約束 すること！

自然を守るということは自然を利用することに規制をかけるということでしょうか？奄美群島の自然は奄美群島の地域の貴重な資源です。この素晴らしい資源を地域振興に生かさない手はありません。しかし、自然との付き合い方を間違えると、奄美群島の自然、世界遺産的価値は簡単に失われてしまいます。地域の財産でもある自然を守ること、そして自然を使って地域を豊かにすることの両立を目指して、環境省では国立公園、世界自然遺産、エコツーリズムの推進等の取組を進めています。

■指定動物が指定されました。（2020年3月）

奄美群島国立公園内で捕獲等が規制される指定動物にアマミマルバネクワガタ（写真左）、マルダイコクコガネ（名義タイプ亜種、徳之島亜種、写真右）が指定されました。今回指定された3種は市町村条例により奄美大島、徳之島全域において捕獲に規制がかけられていますが、指定動物の指定によって国立公園内における捕獲等にさらに規制が強化されました。指定動物に関する法律に違反すると6ヶ月以下の懲役又は50万円以下の罰金が科せられます。



■報告 センター 20 周年記念イベント

奄美野生生物保護センターは2000年4月にオープンし、20周年を迎えました。20周年を記念して、奄美群島で長年研究をされてきた服部正策氏によるオンライン講演会と、奄美の希少種の生活に着目した企画展「希少種の生活～寝る・食べる・育てる～」を開催しました。イベントの様子はYoutubeでも公開されていますのでぜひご覧ください！



■野生動物 × 農業

【徳之島の地域循環共生圏】

地域循環共生圏とは、地域の資源を活用しながら環境・経済が循環し持続可能な社会を目指す考え方です。世界自然遺産の象徴であるアマミノクロウサギですが、近年農作物への食害被害が深刻化しています。徳之島では、徳之島地区自然保護協議会が中心となり、地域循環共生圏の取組のひとつとして同じ島の住民である農家と希少種が共生できる形を目指し、食害された農作物のブランド化などに取り組んでいます。去年は、アマミノクロウサギの生態を学び、食害被害が発生しているタンカン農園で被害を低減するための防護柵を設置するモニターツアーを行いました。参加者が思いを込めたタンカンがアマミノクロウサギとともに成長して美味しい果実をつけるのが待ち遠しい限りです。このように、自然と対立するのではなく、いかに自然とともに生きていくかという視点がこれから求められてくるかもしれません。



■歩く × 観光

【世界自然遺産 奄美トレイル全線開通】

「世界自然遺産 奄美トレイル」は、奄美群島の8つの有人島をつなぐ長距離の自然歩道です。亜熱帯の森や白い砂浜、サンゴの石垣が残る集落など、奄美ならではの自然や文化に触れあうことのできるコースが51コース設定されており、今年1月に全線開通しました（総延長約550km）。トレイルコースの一部は国立公園区域の中を通過しており、皆さんがお住まいの地域にもトレイルコースが通っているかもしれません。まずはお近くのトレイルコースを歩いてみましょう。目線を変えて歩くとこれまで気づかなかった地域の宝が見えてくるかもしれません。

